

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：平成30年11月15日(木)
(2018年)

地域企業紹介 58

株式会社旭商会

環境企業として 人と地球の未来を守る

株式会社旭商会(代表取締役:根本敏子氏)は、「リサイクル再資源化事業」を基本事業の核とし、「収集運搬事業」「清掃・メンテナンスサービス事業」「不要機器類資源化事業」「トナー関連物リサイクル事業」の5つの事業を柱とする環境イノベーション&ソリューション企業だ。核事業となる「リサイクル再資源化事業」では、可燃性廃棄物を処理する焼却設備、汚泥を処理する乾燥設備、樹脂基盤等の破碎・圧縮設備を連動させ、エネルギーの再利用を行うとともに廃棄物の成分や性状等を自社分析し、独自の処理・加工技術を基に可能な限り資源化リサイクルを行うことで環境保全に大いに貢献している。第1エコプラザではOA機器をはじめ各種産業関連機器や廃棄製品等の不要機器類を「手作業」により解体分析した後、破碎・粉碎及び分離の機械加工を施し付加価値の高い再資源化とゼロエミッションを実現している。ここではベースメタルや貴金属、レアメタル、樹脂の原材料としてリサイクルされ、二次廃棄物を発生させない仕組みだ。同時に不要機器・製品類の機能やデータの破壊を行い、不正利用も防止している。第2エコプラザでは廃棄されたトナーカートリッジ・トナーボトルなどのトナー製品を自社オリジナルの防爆型分離システムにより安全に分離処理している。収集運搬事業及び清掃・メンテナンスサービス事業では、ダンプ車・バキューム車・クレーン車・高圧洗浄車・大型プロアダンパー車など多種多様な特殊車両(ONx・PM適合)を50台以上保有し、排水処理場清掃、沈殿池清掃などにも対応、官公庁をはじめ大手メーカーなどを主な取引先としている。

同社は、1967年に根本忠次郎氏(敏子氏の義父)により「非鉄金属の資源化リサイクル事業会社」として創業された。戦後の高度経済成長期に産業が大きく発展成長していく中、一方では四大公害病をはじめとする環境汚染が深刻な状況となっていた。小学校の朝礼や体育の授業中、光化学スモッグの影響で倒れてしまう子どもがいた時代である。この公害や環境汚染という極めて重要な社会的問題に対して、忠次郎氏は日本の将来を見据え、いち早くソリューション事業に取り組まれた。折しも公害対策基本法(昭和42年法律132号)が制定された年である。忠次郎氏は1970年に「有限会社旭商会」を設立、神奈川県産業廃棄物収集運搬・処分(中間処分)業の許可を取得して事業を本格的にスタートさせた。

株式会社旭商会

代表取締役 根本 敏子(ねもと としこ)

所在地: 相模原市緑区下九沢 2096-1

従業員数: 110名(パート、シルバー人材を含む)

資本金: 3200万円 売上高: 14億円

事業内容: 収集運搬事業、リサイクル再資源化事業、不要機器類資源化事業、トナー関連物リサイクル事業、清掃・メンテナンスサービス事業

URL: <http://www.asahi-shoukai.co.jp/index.html>

1976年には忠次郎氏の長男であり敏子氏の夫である忠幸氏が代表取締役役に就任、翌年には相模原市下九沢に本社工場が完成し、汚泥を中心とした中間処理施設(焼却・乾燥)の操業を開始。民間工場の排水処理・下水道管等の清掃メンテナンス事業、感染性廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬及び処分事業などへ次々と事業を拡充していった。そんな矢先、忠幸氏は大病を患い、その後の経営を敏子氏に託し享年48歳の若さで他界された。いつも凛として明るい敏子氏だが、当時のことを思い出すと今でも目頭が熱くなると言う。その敏子氏が三代目代表取締役に就任したのは1998年、二人の愛娘がまだ中学生の頃。突然の事業承継で、会社経営と子育てを両立させるのは並大抵のことではなかったと察するが、気丈にも創業者である義父と夫の環境保全に対する揺るがない意志を受け継ぎ、独自の環境理念を樹立した。特筆すべきは、同社が自社利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持ち、あらゆるステークホルダーからの要求に対して適切に対応し責任を果たす「CSR」に、全社一丸となって取り組んでいることだ。こうした取り組みは「CSR報告書」(社内版)に「トップインタビュー」をはじめ「CSRと基本事業」、「経営プラン」「CSRマネジメント」などに具体的に示されている。その他国家資格を有す環境計量士の高度な分析技術による排ガスの煤塵(ばいじん)やダイオキシン類等の測定結果が表示され、安全性や信頼性がひと目で分かるようになっている。特に、今年度は分析室の機能強化プロジェクトを立ち上げ、分析機器の新規導入・入れ替えを行い、計量証明事業の登録を行い、環境分析分野の充実を図っている。

さらにISO(14001)の取得とともに社内教育やコンプライアンスも徹底している。そのような中、同社では「フィードバック改善」活動として、各事業部門における環境・安全衛生・業務上の問題改善に社員が積極的に取り組んでいる。こうした社員たちの主体的な取り組みが当社の“最大の強み”だと根本社長は言う。その言葉の奥には、社員への感謝の気持ちと常に社員とその家族を大事に考えている根本社長の心がうかがえる。ちなみに同社では油などで汚れた作業着を会社側で洗濯している。これは家族(奥様)への負担を少しでも軽減したいという根本社長の経験によるもので、女性経営者ならではの視点だ。

創業以来「和」を企業理念とする同社は、ステークホルダーとの相互理解を深めることを目的にリサイクル施設(自社公開)の見学会を実施している。また、全社一丸となって不法投棄防止撲滅に関するキャンペーンに参画すると共に相模原市(SIC)が実施している「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」にも毎年協賛するなど地域への貢献活動や地域とのコミュニケーションにも積極的に取り組んでいる。法人設立50周年に向けて「私たちの業務そのものが環境につながっているからこそ、倫理的な意識を十分に持ち、社内はもちろんステークホルダーの皆さまや地域住民の方々にとっても、透明性のある会社でありたい」と熱く語る根本社長。独自の環境理念に基づき「未来の地球 未来の子どもたちを守るために」今なすべきことは何かを自問自答し試行錯誤を繰り返しながら、常に前進を続けている根本社長と社員の皆さんに心から感謝とエールを贈りたい。

入居企業紹介

61

「ユーザーに本当に喜んでもらえる製品を実現したい」

ハイテクインター株式会社

本社を東京都渋谷区に置く産業用通信機器の企画開発に取り組むハイテクインター株式会社の執行役員CTOの兼原 博之さんにお話を伺いました。



同社は、業務用の通信機器の輸入・販売を主力事業とし、輸入製品の各種検査・検証とメンテナンス、そして使用環境に最適な製品提案力を顧客から評価され業績を拡大してきました。近年の映像関連または通信技術が急速に発展する一方で監視カメラ需要が増加し、それに対応する“映像事業部”を新規事業部門として立ち上げ、製品開発の執務環境を社外に設置するためSICに入居されました。

2014年に立ち上げた映像事業部ではマルチベンダーデコーダ“MBoxシリーズ”を製品化

し、販売を開始しています。事業者が使用する監視カメラはメーカーが統一されていないことがほとんどですが、MBoxはそれぞれのカメラから送られる映像の一括管理を可能にします。

さらに映像事業部は次の事業展開を進めています。データサイズの大きい映像を通信するには回線への負荷が大きくなり、新しい通信技術の開発に多くの企業がしのぎを削る中、ハイテクインター社は映像の“圧縮技術”による製品化に取り組んでいます。これは低速な回線でも監視やコミュニケーションに必要なサイズの映像を通信するために有用な方式であり、相模原ラボでは顧客ニーズを見据えた設計、コーディングを繰り返し、早期の製品化に向けた開発を行っています。

兼原さんは、「ユーザーに本当に喜んでもらえる製品を実現したい」と真摯に取り組まれ、ビジ

ネスにおいて「ものにする」ということは、作り上げるのではなく、誰かに使ってもらって満足してもらうこと。社会から認められ、喜んでもらえるものづくりに、そして「やるからにはやり遂げる」の精神で挑戦し続けていきたいと話してくださいました。



MBox：コーデック・アスペクト比・フレームレート・データレートが異なる映像をまとめて分割表示。IPカメラ、エンコーダに依存しない一括映像監視が可能。



MBoxシリーズ：
フルHD対応
マルチベンダーデコーダ

ハイテクインター株式会社
SIC-1102号室 URL: <https://hytec.co.jp/>



What is “Incubation”?

これまでに、社員研修として活用いただける、『SIC経営塾』(51号)、『SIC職場リーダー養成塾』(52号)、『カイゼン・スクール』(54号)を紹介して参りました。今回は、次代を担う人材の育成と採用に関する事業をご紹介します。

1. 子どもアントレ

毎年8月、小学5・6年生を対象に開催しています。初めて出会う仲間と会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算という会社経営のプロセスを疑似体験するものです。この体験を通して、「①会社や経済の仕組みを知る」「②チームワークの大切さを知る」「③お金の大切さを実感する」とともに、「④失敗をおそれずに挑戦できることを養う」「⑤自分の考えで行動できる力を養う」などの気づきを持ち帰っていただいています。

2. アントレ・インターンシップ

毎年6月～10月、大学生を対象に開催しています。子どもアントレの企画・運営という業務の遂行、業務を遂行した結果の振り返り、経営者や社会人との交流などを通して、「①社会人としての心構え」「②仕事の進め方」などを学びます。そして、4ヶ月に亘る挑戦によって新しい自分を発見することができます。

3. サガツクナビ

地元で働きたい学生と人材を採用したい地元企業との出会いを“つくり”“つなぐ”、地元密着型の就職(採用)支援サービスです。

サガツクナビは、WEBサイトを通した企業情報や採用情報を発信するだけでなく、ジョブ・トーク(学生と企業の交流会)、KAIMAMIシリーズ(企業見学ツアーなど)などのリアルな場での交流を通して、地元企業を知り、経営者の思考に触れ、学生の思考を知ることなどにより、より良い就職と採用の実現を目指しています。

あわせて、ジョブ・サポート(学生個別相談)を通して、どのような仕事をしたいのか、どのような形で社会に関わっていききたいのか、どのようなライフスタイルを実現したいのかなどを明らかにし、自分にとっての適職と適社を見つける支援をしています。

当然ながら、就職だけでなく起業という選択肢もあります。SICがもっとも得意とする分野ですので、しっかりサポートさせていただきます。

<SICの人材育成プログラムについて>

『子どもから経営者まで!』

企業経営における経営資源は「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」と言われています。

モノを生み出すのは「ヒト」モノを販売しカネを得るのも「ヒト」情報を収集し、分析するのも「ヒト」そのため、SICでは、この人材事業の充実に力を入れています。



担当IMから

近年は、子どもアントレに参加した大学生のアントレ・インターンシップへの参加も増えております。その後、地元の企業に就職するケースもあります。20年余りの時間を要しましたが、ようやく一定の成果が出始めていますので、引き続き、地道にコツコツと積み上げ、次代を担う人材の育成に努めていきたいと思ひます。

また、今後は、SICの原点に立ち返り、企業支援にも注力していきますので、よろしくお願いいたします。



事業創造部副部長
上野 泰和

福井県出身。大学卒業後、アパレルメーカーに就職し、都内百貨店の営業担当として約11年勤務。2年ほどのブランクを経て、2003年1月、SICで働くご縁をいただき、以来、企業支援、産学連携による商品開発、今回ご紹介した人材事業、社内システムの管理などに従事。多くの方との素敵な出会いに恵まれ、楽しく、激しく仕事をしております。

そばや池乃家

今回は中央区光が丘にある「そばや池乃家」を訪問しました。創業46年を迎えた昔ながらの町のお蕎麦屋さんで、看板メニューの親子丼セットといなか鴨汁をいただきました。蕎麦はいつでも大盛、特盛無料とのことで、つつい特盛を頼んじやいました!店主の富田さんは「どんな人が来ても満腹になって、満足して帰ってもらいたい。」とおっしゃっていました。コースメニューも用意されており、お座敷や掘りごたつで宴会を行うことが出来ます。貸切は20名から可能です。富田さんが自ら作成したホームページのブログにも、いろいろなメニュー紹介が載っているので要チェックですよ! 何度も通いたくなる、地域に密着したお蕎麦屋さん、ごちそうさまでした。(大谷)

相模原市中央区光が丘1-1-20 Tel. 0120-381-908
営業時間 11:00~22:30(L.O 21:30) 17:00までランチOK
※木曜日 14:30~17:00準備中 [土・日・祝]ランチあり
定休日:無定休(お休みはサイトでお知らせ) URL: <https://ikenoya.com/>



ランチ親子丼セット 特盛り3段 1,180円

SIC 地域企業 サポート事業の紹介

前回紹介した地域企業サポート事業の支援の現場の事例を紹介します。企業の皆様と専門家とのお引き合わせから業務調整、進捗管理までSICスタッフが行います。ぜひ、ご相談ください。



① 経営支援(川津公認会計士事務所)

事業支援

予算や短期計画を策定し、経営者への数字の意識づけを行います。



3年後の経営者の思い描くビジョンを数値化し、経営者が売上向上に集中し、経営以外の人、資金、設備に関する経営課題に迅速に対応し、計画の実現をしました。



② 特許出願(大貫小竹国際特許事務所)

特許

知的財産権の調査や取得、知的財産戦略を支援します。



既存製品に新たな機能を備えた新製品開発を進めるためアイデアを他社に権利化されない対策と販路拡大に伴う認知度向上に対するリスク対策を図り、安心感の中、腰を据えて協力企業との製品化に取り組むことができました。



③ 販路開拓支援(株式会社KOZAKIKAKU)

デザイン

販売促進ツール、ブランドの確立に必要な印刷物、Webサイト等の制作を行います。



マスメディアでニュースとして取り上げられた独自開発した技術や製品を情報発信して周知させるため、総合的にWebサイト、パンフレット、ロゴマーク、名刺、動画を制作。多くの大手企業から製品購入の問い合わせがあり、受注に結びつきました。



④ 契約支援(高瀬総合法律事務所)

契約支援

ビジネスに必要な契約書類の作成、リーガルチェックを支援します。



商談会参加後に大手企業から再商談に向けて秘密保持契約書の提示があったが、技術上の機密保持に不安があり、リーガルチェックを実施。最終的に当社の技術が保護されただけでなく、大手企業にとっても必要以上に制約を受けない秘密保持契約書の締結に至りました。

2018.11 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

- 11月21日(水) 産業用ロボット活用フォーラム in 大和
12月 5日(水) 経営者セミナー「ブレない老舗のプライド」
12月 5日(水)～2月15日(金) 全9日間システムインテグレート養成講座
12月20日(木)・21日(金) ロボット操作教育(基礎コース)
平成31年
1月16日(水)～18日(金) ロボテックス ロボット開発・活用展
1月29日(火) 生産性向上のためのVEセミナー
3月 7日(木)・8日(金) ロボット操作教育(基礎コース)

地域企業サポート事業の問い合わせ先

株式会社さがみはら産業創造センター
事業創造部 担当:五島
電話 042-770-9119(代表) FAX 042-770-9077

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>



入居企業を募集しています。

SIC空室情報(平成30年11月15日現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 ○スモールオフィスA(23.6㎡)	2	78,700円
SIC-2 △セミラボ(50.2㎡) ※2019年1月以降入居可能	1	172,700円
SIC-3 空室はありません	-	-

編集後記

「SICかわらばん-地域版-」は、今号で11年目になります。来る平成31年及び〇〇元年(2019年)、SICの仕事始めは1月4日(金)、次号59号は、2019年1月15日(火)の発行を予定しています。本年もご愛読いただき、ありがとうございました。皆様、良いお年をお迎えください。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>